

刑法総論 I

科目ナンバリング CRL-101

必修 2単位

堀田 晶子

1. 授業の概要(ねらい)

刑法は、犯罪と刑罰に関するルールです。1年次に学修する刑法総論では、すべての犯罪に共通する要素(犯罪の成立要件)を分析し、「およそ犯罪とは何か」を考えます。一見、抽象的に見える犯罪論も、具体的な事例を用いてイメージすることで、確かな理解へと繋がります。1年間を通じて、刑法総論の主要な論点と向き合い、法解釈の技術を学ぶとともに、犯罪論を体系的に理解する法的思考力を身に付けます。

2. 授業の到達目標

①刑法総論の主要な論点について、判例の立場や学説の対立を意識しながら、具体的に説明できること。

②法解釈の技術を学び、犯罪論を体系的に理解する法的思考力を身に付けること。

3. 成績評価の方法および基準

基本的には試験によって評価します。評価配分の目安は、試験90%、授業への貢献度10%です。授業への貢献度は、勉学への意欲や授業態度等によって総合的に判断します。

4. 教科書・参考文献

教科書

以下の教科書をお勧めします。本には相性があるので、この中から自分が読みやすいと思ったものを選んでください。

大塚裕史 十河太郎ほか 『基本刑法1・総論(第3版)』(2019) 日本評論社

西田典之(著)・橋爪隆(補訂) 『刑法総論(第3版)』(2019) 弘文堂

井田良 『講義刑法学・総論(第2版)』(2018) 有斐閣

参考文献

西田典之・山口厚ほか 『判例刑法・総論(第7版)』(2018) 有斐閣

井田良 『基礎から学ぶ刑事法(第6版)』(2017) 有斐閣

5. 準備学修の内容

特に復習に力を入れてください。毎回の授業で扱ったテーマについて、関連する条文を必ず確認し、レジュメやノートを読み返しながらか、復習しましょう。勉強すればするほど疑問がわいてきます。疑問点が出てきたら、テキストを繰り返し読みながら、まずは自分で考えてみましょう。図書館を大いに活用し、時には友人と議論してみてください。それでもわからない場合は、教員に質問してください。

6. その他履修上の注意事項

授業をよく聞いて、その都度レジュメに書き込むか、ノートを取るようにしてください。自分で書いて、理解することが大切です。授業の内容が聞き取れなかった場合は、あやふやのままにせず、すぐに確認してください。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーションー刑法総論とは何か?ー
- 【第2回】 刑法の機能・刑罰の正当化根拠
- 【第3回】 罪刑法定主義①ー法律主義・遡及処罰の禁止ー
- 【第4回】 罪刑法定主義②ー明確性の原則・類推解釈の禁止ー
- 【第5回】 罪刑法定主義③ 演習問題
- 【第6回】 犯罪とは何かー犯罪の3要素・犯罪の認定手順ー
- 【第7回】 構成要件とは何かー構成要件の内容と機能ー
- 【第8回】 客観的構成要件ー実行行為・結果・因果関係ー
- 【第9回】 客観的構成要件ー因果関係論①ー条件説と相当因果関係説ー
- 【第10回】 客観的構成要件ー因果関係②ー危険の現実化説ー
- 【第11回】 前半のまとめ
- 【第12回】 主観的構成要件ー故意・過失ー
- 【第13回】 主観的構成要件ー錯誤論①具体的事実の錯誤ー
- 【第14回】 主観的構成要件ー錯誤論②抽象的事実の錯誤ー
- 【第15回】 春期のまとめと試験(予定)